

治水神社由緒

祭神

平田鞆負正輔大人命
ひらた づきえ まさすけうしの みこと

創建

昭和十三年五月二十五日 御鎮座

神徳

除災招福・国土安穩

平田鞆負大人（宝永元年〜宝暦五年）は、世に名高い宝暦治水工事に一身をなげうって立ち向かい、みごと完成させた薩摩藩士の総責任者です。草創の由緒から知られるとおり特に水害などの自然災害の除災復興に靈験あらたかです。

由緒

江戸時代の中頃、徳川幕府は、木曾三川の水害で悩む濃尾平野西南部の住民を救うため、薩摩藩にお手伝い普請を命じました。薩摩藩士らは、経験したことのない水の流れに苦しみながら、この地方の住民のため、多大の犠牲を払い、万難を排して工事を見事完成させました。

平田鞆負大人は、この工事の総責任者です。幕府の検分が終わった宝暦五年五月二十五日、大人は多くの犠牲者を出し、予想外の出費を余儀なくさせられた責任を一身に引き受けて、美濃大牧の役館で命終されたのです。

薩摩藩の経済を破綻させたこの悲劇の大工事は、永く伏せられていました。明治維新後、三重県多度に住む西田喜兵衛は、深い人間愛に基づいたこの事実を世間に知らせ、慰霊と顕彰に邁進しました。明治三十三年には、近代の木曾三川の治水工事の成功式に併せて「宝暦治水之碑」が、時の総理大臣山県有朋公を迎えて油島千本松原に建立されました。

その後、地元の人々の報恩感謝の熱い思いにより、現在の地に、平田鞆負大人を御祭神として、この大工事を完成させた薩摩藩士の功績を讃え、平田鞆負大人の遺徳を偲び、犠牲となった多くの藩士達を慰霊し、併せてこの地域一帯が水害を免れるよう祈って、治水神社が創建されました。

社殿

神門、玉垣内に、本殿、祭文殿、拝殿が、渡殿で連結されています。

本殿、祭文殿は桧造り銅板葺き流れ造りで昭和五年十月に造営、拝殿は入母屋造りの桧造り桧皮葺きで昭和十三年二月に造営されました。

境内社 治水昭和之宮

昭和三十四年九月二十六日、この地方を襲った伊勢湾台風の主として三重県内の犠牲者を慰霊するため、翌年創建されました。拝殿向かって右側にあります。

関連施設

治水観音堂

昭和二十八年に建立され、奉納された観世音菩薩立像を本尊として、五月二十五日入仏式が執り行われましたが、昭和五十八年現在の建物に改築されました。ご本尊の両脇に薩摩藩士犠牲者のお位牌いはいが祀まつられ、秋季例大祭はここで仏式により執り行われます。

祭日

毎月二十五日 月次祭

*

一月一日 新年祭

一月二十五日 初穂祭

二月十一日 建国記念祭

二月二十七日 工事始祭

三月二十八日 成功祭

四月三日 尚武祭

四月二十五日 春季例大祭

五月二十五日 鎮座記念祭

十月二十五日 秋季例大祭（仏式）

治水昭和之宮慰霊祭（午後）

十二月二十三日 天皇誕生祭

十二月二十八日 贈位記念祭

十二月三十一日 越年祭

祭礼

舟神輿 春季例大祭には、地元自治会より、様々な神輿が奉納されます。式典の最後には、地元有志による舟神輿が奉納されます。神輿には、平田靱負大人の没年である五十二歳の心男が付き添い、舟神輿と共に長良川で禊みそぎきを済ませた後、神前まで練り歩きます。この他、様々な催し物が奉納されます。

万灯会 五月二十五日の鎮座記念祭、八月二十五日近くの日曜日には、この地方の薩摩県人会の皆さんによる万灯会が奉納されます。社前いっぱいにおかれた青竹の筒の中のように、いっせいに火がともされます。

参拝者行列式 秋季例大祭には、神前から雅楽師、僧侶、参拝者一同が、社前から治水観音堂まで、隼人橋をわたって練り歩きます。雅楽と僧侶の読経の音が厳かな雰囲気をかもし出します。

式典

薩摩義士顕彰式 春季大祭の神事、秋季大祭の仏事はいずれも宝暦治水史蹟保存会の主催により執り行われます。神事もしくは法要の終了後、引き続き岐阜県薩摩義士顕彰会主催による薩摩義士顕彰式典が挙行されます。